

【1.体制】

薬剤師6.1名・薬局事務2.2名体制でスタート。5月に産休・育休1名のため派遣薬剤師1名確保。8月に産休・育休1名の補充なし。8月以降は実質薬剤師5.1名（非常勤週1日勤務含む）・薬局事務2.2名（他部署からの応援週1日勤務含む）体制。

【2.取組内容と実績】

【薬局理念】

患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます。

【基本方針】

- ・医療チームの一員として他職種と連携をはかり、医薬品の適正使用を推進します。
- ・向上心を持って自己研鑽に励み、より専門性の高い薬剤師を目指します。
- ・教育・研修を推進し、人として、医療人として暖かみのあるスタッフ育成に努めます。

1. 外来業務

99%院内処方。前年同様、コロナ禍の中、必要に応じて車待機場場まで出向いての服薬指導をはじめ、感染対策を徹底しながらの活動であった。特に、薬剤師不足のなか、病棟業務も兼務し、派遣薬剤師への指導も行いながらと非常に体力的にも厳しい状況であったが、協働を推進し、助け合う風土を構築しながら医薬品の適正使用、アドヒアランスの向上に努めた。また、ジェネリック医薬品への切り替えも積極的に行い、一包化調剤や、残薬調整についても断ること無く業務遂行し、服薬コンプライアンス向上、医療資源の有効活用、および患者さんの負担軽減にも大いに貢献できたものと考えられる。新型コロナワクチン調製業務も継続実施。

| | 2022年度 | 2021年度 | 2020年度 |
|-----------|--------|--------|--------|
| 一包化調剤（外来） | 2,206件 | 2,317件 | 2,189件 |
| 後発医薬品使用割合 | 87.6% | 87.5% | 83.7% |

2. 病棟業務

コロナ禍でベッドサイド訪問が制限されるなか、医師・看護師をはじめ病棟スタッフとの連携をより密にとり、ポリファーマシーの改善をはじめ、医薬品の適正使用に尽力した。特に医師の負担軽減のためのPBPM（プロトコルに基づく薬物治療管理）の構築にも取り組み、積極的に処方支援、変更提案などを行った。限られた人員のなか、土日・祝日の勤務も継続。365日毎日薬剤師が勤務していることで、タイムリーな持参薬鑑別報告書作成をはじめ、リスク管理にも貢献できた。また、新型コロナウイルス治療薬の調製を全て薬剤師が行い、看護師の負担軽減にも貢献できた。

| | 2022年度 | 2021年度 | 2020年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 持参薬鑑別 | 838件 | 925件 | 903件 |

3. 無菌調製

1年を通して入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。

| | 2022年度 | 2021年度 | 2020年度 |
|---------|--------|--------|--------|
| 無菌調製 | | | |
| 抗がん剤 | 67件 | 59件 | 87件 |
| 高カロリー輸液 | 37件 | 9件 | 23件 |

4. 新型コロナウイルス治療薬および新型コロナワクチン調製

土日・祝日、年末年始問わず、全ての調製を薬剤師が行った。

| | 2022年度 | 2021年度 | 2020年度 |
|------------|--------|--------|--------|
| 治療薬調製 | | | |
| レムデシビル点滴静注 | 196件 | 109件 | — |

新型コロナワクチンは、職員接種分のみならず住民接種用も全て薬剤師が調製。

5. 人材育成と自己啓発

委員会、プロジェクトなど、若手にも積極的に参画してもらい、他部署との連携・協働の重要性も学んでもらった。年度末には地域の研究会で発表できるまでに成長。派遣薬剤師も2年目薬剤師であったため、カルテの見方からチーム医療についてまで、幅広く、全スタッフで育成・指導にあたった。また、コロナ禍で集合研修ができないなか、薬局内でのスモール学習を継続。週に1回、業務開始前の15分を利用して持ち回りによる勉強会を1年間通して開催した。次年度は、集合研修再開も視野に入れ、日々の研鑽とともにスキルアップに努め、さらなる高みを目指していく。

6. 医薬品在庫管理および情報提供

後発医薬品への切替えを推進し「後発医薬品使用割合85%以上」を達成できた。また、高額医薬品の適正管理や期限切れ医薬品の削減、包括病棟におけるコスト管理など、経営面に貢献すべく取り組んだ。医薬品情報データベースにはD Iニュースをはじめ、COVID-19関連情報、看護師向け情報、安全性情報、疾患の基礎知識などを掲載し、情報の共有化・一元化に努めるとともに、いつでも、どこからでも確認できるよう改訂・更新を行いながら、使えるデータベースの構築に努めた。

【3.今後の課題】

次年度は産休・育休スタッフが皆復帰予定のため、これまで制限せざるを得なかった病棟業務など、より専門的に、効率よく業務遂行できる体制を再構築していく。そしてポリファーマシー対策をはじめ、医薬品のさらなる適正使用に貢献できるよう努めていく。また、スタッフの働き方改革を推進し、有給休暇取得率の大幅アップを目指す。